

2020 年度実施概要

学校名

愛媛県新居浜市立多喜浜小学校

採択活動名

海の恵みで発展してきたふるさとを学ぶ～多喜浜塩田を未来に伝えよう～

実施単元 ※実施した単元の数に応じて記載してください

| 単元名 | 学年 | 教科 |
|-------------------|------|---------------------|
| 1. うみのいきものとなかよし | 1 年生 | 海洋教育科、国語科、図画工作科 |
| 2. 海の生き物を調べよう！ | 2 年生 | 海洋教育科 |
| 3. 海からのおくり物 | 3 年生 | 海洋教育科、国語科 |
| 4. 海のめぐみ 多喜浜塩づくり隊 | 4 年生 | 海洋教育科、社会科、総合的な学習の時間 |
| 5. 多喜っ子海洋調査隊 | 5 年生 | 海洋教育科、学級活動 |
| 6. 多喜っ子 海洋守り隊 | 6 年生 | 海洋教育科 |

取り組みの概要

1 活動のねらい

本校は、世界で唯一、塩田施設を有し、「塩の学習館」において、「塩作り体験」を行うことができる。このような施設や多喜浜塩田の文化遺産を核にして、本校を新居浜市の「ふるさと学習」の拠点として位置付け、学習活動を展開する。様々な学習活動を通して、地域の文化遺産を未来に伝える意義や方策、また多喜浜塩田の歴史と海とのつながりや海洋環境保全について学び、学習の内容や成果を積極的に発信し、保護者、地域と連携して持続可能な社会の担い手を育てる。

2 実施内容**(1) うみのいきものとなかよし**

身近な海や海の生き物への興味・関心を高めるために、校区の海の生き物と触れ合ったり、水族館で近海の生き物を観察したりするとともに、漁師の方の話を聞いたり、海に囲まれた島の暮らしを知ったりする。そして、それらをまとめ、発表する。

**(2) 海の生き物を調べよう！**

身近な海の生き物や環境への興味・関心を高めるために、多喜浜の海や瀬戸内海に生息する海の生き物を観察したり、触れ合ったりするとともに、多喜浜漁港の様子を見学したり、多喜浜の海で獲れる魚を調べたりする。そして、見つけた海の生き物について振り返り、児童同士で共有させる。

(3) 海からのおくり物

海と自分たちがつながっていることに気付き、海から多くの恵みを受けていることを理解するために、多喜浜の海の生き物や海に関わる人たちと接したり、海の生き物が姿を変えている身の回りの食品を調べたりする。



(4) 海のめぐみ 多喜浜塩づくり隊

多喜浜の海や生き物を観察したり、多喜浜塩田について調べたり、塩作りを体験したりする。また、昔から継承されている伝統ある塩田や先人の苦勞について調べ、学習したことをまとめて発表する。

(5) 多喜っ子海洋調査隊

多喜浜の海や瀬戸内海に生息する生き物や植物を観察する。また、多喜浜の海岸の環境について調べ、流れ着くごみの種類や様子についてまとめて発表する。



(6) 多喜っ子 海洋守り隊

実際に近郊の海に出向き、生息する生き物を観察する。また、海と関わる仕事をしている方の話を聞いたり、水産物や海洋環境について調べたりする。そして、学習したことをまとめて発表する。

4 成果と課題

(1) 成果

- ・ 様々な体験活動を通して、海に親しみをもち、海の生き物への興味・関心を高めることができた。
- ・ 地域が大切にしている塩田文化のもととなる「海」に直にふれることを通して、その楽しさや資源の豊かさなどの魅力を感じることができた。
- ・ 海洋ゴミの存在を知ることで、自分たちの生活を見直すきっかけとなった。
- ・ 「かしょい（助け合い）」の精神が生まれた背景を知り、自分たちの生活の中に「かしょい（助け合い）」を目標として取り入れようと考えようになった。また、塩田文化を後世に伝えるために地域の方々が努力されていることに気付くことができた。

(2) 課題

- ・ 海洋調査等専門性が高い内容があるため、外部機関や地域との連携が不可欠である。
- ・ コロナ禍で体験活動の実施が困難であったため、児童の意欲付けが難しかった。今年度実施できなかった活動も含め、次年度への校内での引継ぎを確実に行う必要がある。
- ・ 調べたり体験したりしたことを伝える場面において、しっかりと自分の思いや考えを伝える表現力の育成に努めたい。